



日本共産党掛川市議会議員
勝川志保子・掛川市塩町3-7

☎22-1325・FAX22-3883・Eメール sihoko@mbr.nifty.com

しほこ通信 NO184
2021.6.21

勝川しほこ 検索

| 過去5年間の申請件数の推移 | |
|---------------|------|
| 2017年 | 204件 |
| 2018年 | 209件 |
| 2019年 | 251件 |
| 2020年 | 239件 |
| 2021年 | 323件 |

仕事が欲しい事業者。お買い物券がもらえてうれしい市民。お買い物券で買い物してもらえると助かる商店。「3方よし」の地域循環型施策として太鼓判がおされている「住宅リフォーム助成制度」。

今年もたった6日間の申請期間に過去最高の323件もの申請があり、とうとう助成の上限は10万円から5万2千円ほどに下がってしまいました。(申請調整されたため)

そもそも1500万円しか予算がなく、補正もない。補助金だからとの説明です。その上、商品券が使えるのは事業を任せている商工会議所・商工会加盟のお店のみで、多くは本社が市外の大規模店に流れています。

学校は地域にあるべき

かけがわ型小中一貫カリキュラムがつくられ、学園とよぶ各中学校区の枠組みで「新たな学校づくりの検討」がされてきました。

この観点からだけで計画を考えれば「できるだけ小中で学校はひとつ」の結論に行き着くのは当たり前と言えば当たり前。

でも地域の拠点の小学校は防災や子育て、福祉、社会教育やスポーツなど多くの役割を果たしており、学校を残す選択はあってしかりです。

小6のあの威厳に満ちたリーダーぶりは一貫校では難しい。6才の幼児期後半の子と15才の思春期の子どもが求める空気は違います。大人の都合のコスト削減を子どものためと言いくるめてはいないか疑問です。



住宅リフォーム助成制度 大好評で今年も助成が減額に

もっと本気で中小企業の支援制度にしてほしい。一回限りにせず上限になるまで何度も使えるようすれば、外壁に偏った工事が規模の小さいリフォームにも広がるだろうし、工夫次第で市民にも事業者にも商店にも喜ばれるものになります。

1500万円の予算も来年度は増額してほしいです。



今回「予約できないことはない」と説明でしたが、すぐに一旦予約ができなくなりました。話が違う事態の改善を求めました。特に南部地域はもともとの予約枠が少なくてあつという間に北部の会場でしか予約が取れなくなりました。予約枠と予約予定数が分かっていのに、どうして?と不思議です。今は予約枠を広げ予約を再開しています。(6/20現在) 現場はバタバタです。

14日の予約再開初日の市役所駐車場は相談窓口に行きました。予想されことなのに駐車場の誘導係も立つていませんでした。全序上げて対応できないもののか。足らない部分には改善を求めるしかありませんよね。

(1) 当局へは議員個々に問い合わせはしない
(2) 当局から情報提供されるまで静観すること

というお達しが。
市民の皆さんからの苦情や質問に機敏に動かなければ議員の責任は果たせないので、しっかりとした情報開示などを一般質問で求めていこうと思います。



野菜の花です
何でしょう?
(くくく二:景)

